

議会活動の在り方検討特別委員会記録

招集（開催）年月日	令和5年6月14日（水）	
招集（開催）場所	岩美町役場 全員協議会室	
出席委員	田中克美委員長、宮本純一副委員長、橋本恒委員、升井祐子委員、森田洋子委員、吉田保雄委員、田中伸吾委員、寺垣智章委員、川口耕司委員、柳正敏委員、澤治樹委員（副議長）	
欠席委員	なし	
議長の出席	あり	
職務出席者	浜野議会事務局長	
傍聴者	なし	
開会	10時00分	
記録者	議会事務局 中原書記	
調査事項	あり	
審 査 の 経 過		
日程	発言者	内 容
開会	田中克美委員長	*起立、礼 議会活動の在り方検討特別委員会を始める。 足立議長あいさつをお願いします。
あいさつ	足立議長	きょう、今まで以上をお願いしておきたいのは、報酬の案件をこの議会活動の在り方検討特別委員会として改めてどういう方向にしていきたいかということをお早い段階で結論を出していただきたいということと、その後どのように進めていくかということをお議論していくと思うが、できる限り丁寧な進め方をしてほしいということだ。県下の議長会の中で度々話題になるが、どの議会も丁寧な進行に努めていくのを大前提としているようなので、その辺を改めてお願いして挨拶とする。
協議事項 (1)	田中克美委員長	協議事項（1）特別委員会の今後の目標について入る。 事前に宮本副委員長と協議をして内容を提示した。かいつまんで説明をすると、実質日程的には2年間を目標にしているが、二つ目標を明確に立てたい。一つ目は（1）次期改選1年前の再来年の6月議会において、議員報酬を引き上げるようにしたいと思っているが、議員報酬を議決をすることを目標にしたい。そのために二つ目の目標として（2）議会や議員の活動が、町民にとって期待に沿った活動になってる、そういう努力をしていると評価されるような状況を作りたいと思っている。 この議員報酬決定に向かって、今年の8月1日から来年の7月31日の1年間、報酬支払いの対象になる議会活動、それから議員活動を全員が記録することとしたい。右上に資料と書いたものがあるが、浜野議会事務局長が前回の前期の時の1年間を思い出しながら皆が記録したものを元として議員活動の実態調査をした結果から時間帯を算出したものだ。議会活動の在り方検討特別委員会で様々な議論をし、活動もし、一般質問も以前よりは質問者が増えている。様々な活動の実態があると思うので、改めて記録をして算定のもとにしたいので、記録をお願いしたい。それから、後の流れだが、記録が終わった令和6年8月からこれを集計して、様々な算定の考え方があるので、どれを採用して算定するかは当然議論が必要だが、我々自身が報酬額の算定をする。それ

		<p>を町民との意見交換会に提示して、町民の意見を聞くこととした。それから、その意見を踏まえて、報酬額の再算定が必要な場合には、意見があることを踏まえて、その上で算定したものを報酬審議会に議長から諮問する。諮問するだけでなく、報酬審議会との意見交換会も行いたいと思う。意見交換をした上で審議していただいて、答申を出していただく。この答申に基づいて、6月議会で報酬額を議決するという流れでいきたいと思う。活動時間の記録のために改めて前期の議会活動の在り方検討特別委員会で確認した時間の仕分けのおさらいをしてかかりたい。</p> <p>それから続けて言うが、二つ目の目標、町民に評価される状況を作る。これは前回の議会活動の在り方検討特別委員会の時にも話したが、やらなければならない二つの大きな課題として、政策提言と住民参加の仕組みづくりがある。これの仕組みを作る作業をしたい。それでこれをやりながら、引き続いてこれまでも努力してきた質問や質疑の力を我々がつけていく努力と、政策提言の仕組みを作る努力をし、当然その仕組みが機能するように、我々自身が政策立案の力をつける努力をしていくということだ。</p> <p>それからもう一つは、町民の皆に理解をしてもらう活動や、努力をしている中身を理解していただくことが必要になるので、我々がやってること、あるいは様々な発信の仕方があると思うが、目標に向かって努力をしている状況について議会だよりなどを活用しながら発信する。評価される状況を作るために、この三つに挑戦をしたい。次の議会活動の在り方検討特別委員会からの話し合いになるわけだが、この①と②のことについては、①が主になると思うが、これから議会事務局や足立議長の意見を参考にしながら、適宜相談をして、皆に問題提起をしていきたい。議論を深め、先ほど足立議長からも丁寧な取組と言われたが、丁寧にしないと議会の決定した報酬額が住民から否決棄却されるという智頭町議会の経過を記事にした産経新聞の記事があったので、参考資料としてつけているが、せっかく努力をし、算定もして決定した報酬が無駄になる。最低基準ということで、以前の議会ของときにも資料とした早大マニフェスト研究所報告の一部である滝沢市議会の月額5万円の報酬引き上げを実現した記事を成功事例としてつけている。特に今は景気の問題やコロナ禍がまだ収束していないという背景の中で、報酬の問題はなかなか厳しい状況での取組になると思う。丁寧に進めて、必ず成功をさせることをしないと、失敗したらもう次に手を挙げることはできないだろうと思う。そういうことで、(1)の目標と(2)の目標を心して取り組んで、必ず成功させていきたいと思っている。協力をお願いしたい。</p>
	澤委員 (副議長)	今目標を出されたが、これはあくまでも委員長としての試案であって…。
	田中克美委員長	委員長、副委員長の試案だ。
	澤委員 (副議長)	委員長、副委員長の試案であって、議会活動の在り方検討特別委員会の決定じゃないな。
	田中克美委員長	当たり前だ。
	澤委員 (副議長)	私は個人的にはもっと早めるべきだと思う。
	田中克美委員長	何がだ。
	澤委員 (副議長)	目標の時期を。
	田中克美委員長	早めたらいい。別に異論はない。意見は異議ばかりではなく賛

		成についてでもいい。
	足立議長	では、私をもっと問題を投げかけようか。 この試案は次期議会からということで、3年以上時間がある提案だ。我々この12人は直接恩恵を受けないやり方と思わないわけではない。「丁寧な」ということからするとやっていることが違うと思うかもしれないが、次出られるなら別だが、どうなんだと思う。我々12人は、直接この上げた報酬に関わらない。澤委員（副議長）が今言われたが、この辺りも議論した方がいいのかと思うが、どうだ。
	田中克美委員長	恩恵を我々も受けないと、という気持ちは分かるが、引き上げの努力を我々がするなら、1年前に報酬を上げる結論を出すことは、次期からということをやっているわけじゃない。分かるか。次の選挙に出ようということになれば心の準備も含めて、せめて1年ぐらいは余裕を持ちたいということであって。上げる時期はすぐでもいい。改選の議員からとは言っていない。
	足立議長	この文章からそのようにとれる。勝手な解釈で言っている。間違いであれば…。しかし、考え方として我々12人の報酬としての今はいいのか。そのこともやっぱり言うべきだと僕は思う。今の12人は実際困っていない。上げた方がいいと思うと思っているけど、自分らの期ではしないという文章に取れた。間違いであれば訂正しておく。
	田中克美委員長	一つは、報酬の議論のときにもあったと思うが、今の我々の活動の財政的な保証の裏付けもある。もう一つは、特に年代の若い新しい人が出やすい環境というのがある。ただ、「分かりました。明日からやりましょう。」ということにはならない。それとさっきも言ったように、これに失敗したら次がないと思うので、そこは絶対失敗しない段取りを踏んでやりたい。だから少額ではいけないと思う。
	足立議長	いいか、もう1回言う。この日程で皆さん本当にいいのかと言った方がいいと思う。
	田中克美委員長	それともう一つ。早くなることは駄目だと言っているわけではない。これぐらいはかかるだろうということだ。少なくとも、改めて1年は記録したいと思っている。
	橋本委員	前回の会議のときにも言ったが、その提案を受けて、浜野議会事務局長がこの後資料を作ってくれている。やはり時間を出すということは、おのずとその報酬から割って単価が出てくる。これを見ると時間単価が6,000円だ。この資料を町民に提出をして、納得いただけるかなあと思う。6,000円を超えてお前ら何しているんだと言われるのがおちではないか。というのは、これは本当の議員活動であって、政治活動が時間に入っていないので、この単価を出してしまうと、さすがに…。時間を出すということは結局単価が出てくるということだと思う。
	田中克美委員長	前の全員協議会の時に渡した資料の中にも様々な考え方や算定の仕方がある。さっき言った算定の仕方では我々が我々自身の報酬額を算定するかという議論をするときには、してかからなければならぬ。滝沢市議会でも5万円上げることについて参加した市民の方に了解が得られたというのは時間的に言ったらおそらく全然比較にならないと思うが、了解しているわけだ。それが算定の考え方というのがあるので、どの考え方で我々は算定に向かうのかということ、その時点で議論をしている。これはあくまでも前回の内容を単純に割り算したものだ。これはそういう意味で

		言うと、今後の算定から無視してもらったらいい。
	橋本委員	この単価が下がることはないと思う。アフターコロナ、ウィズコロナでだいたい議員活動が増えてくるかもしれないが、僕らが入ったときの、例えば公的な案内をいただいて議員として出席するのもやっぱり少なくなってきた、活動時間日数というのは、多分、僕たちが1期のときのコロナ前よりは減ってくると思う。だから、いろんな算定方法はあると思うが、その時間単価算定のため1年間記録をとってその構築をすると、1年間、この論議が据え置かれることになるであろうかと思う。僕も子育て世代で、今子どもが大学に行っているの、経済的に余裕があるわけではないので、正直お金は欲しい。上がるのだったらありがたい。やはりその時間が3年間あるというのを1年間の記録をとってそれから、また議論を進めていくとなると、私はこの算定期間の1年間というのがすごく長く感じる。だから、田中委員長ご意見があるのだったら…。
	田中克美委員長	一つは時間、要するに算定の基礎になる活動の時間が、これ以上は増えないと思う。それから、1年間かけて、改めて記録をすることは、言ってみれば、無駄な1年間になると思えるのか。
	橋本委員	無駄だとは言わない。結局その時間を出してしまうとおのずと僕らの報酬というのは、22万8,000円か9,000円だな、今。
	宮本副委員長	22万9,000円だ。
	橋本委員	普通に皆に提示するものはもちろんそれだけではないと田中委員長はおっしゃっているが、これがものすごく活動が何か増えたとしても、時給6,000円が、1,000円とか2,000円になることはまずない。活動が倍や3倍になることはない。その中で、その時給なり日給が出てくるような資料をあえて1年間かけて収集するっていうのはどうかという思いだ。その1年間の活動が無駄だとは言わないが、時間単価を出すとというものになる。ある意味私らの不利になるような資料をあえてその時間をかけて、収集するのはどうかと。今から違う方向性で、例えば「僕らはこういうふうに議会の活性化に対して、直接的な行動をしていますよ。それ見てみてください。」の方が、1年かけるにしても、町民に理解しやすいんじゃないかなと。時間を求めると単価が出てくる。無駄だとはもちろん言わないが、やっぱり1年間という時間ももったいない。
	田中克美委員長	簡単に言うと時間を記録すると不利になるということか。
	川口委員	橋本委員が言われたのも分かるが、前回記録を取って、そういうものも参考にしながら、住民との意見交換をした経過がある。その中で参加された方の意見の中では、12人の議員の中で、その捉え方というか、議員活動、議会活動の捉え方によって、時間数もかなり幅があったと思う。参加された方の中には、やっぱりそういうこと全てが、単価に反映されるものではないということも確か言っておられたと思う。それで今回の8月1日から7月31日の1年間記録を取る中で、今までの領域、そういったものが基本になっていくのかどうかということと、それと前期のときにやった捉え方、そういったものがどのような形になっていくのかということも考えるべきじゃないかなと思う。確かに橋本委員が言われたように、いろんな公的な行事がこうして今見直されてきている。議員の出席を求める案内もだんだんなくなってきた。私は、それはそれなりにいいのかなと思っている。その領域

		<p>的なものと、その捉え方考え方が、その記録にどのように今回、変わっていきこうとしているかというものがもしあったら…。</p>
	田中克美委員長	<p>活動時間をどのように評価するかというために、やっぱり職員 の勤務時間と単純比較はできないと思う。議会を果たすのがやっ ぱり議員だ。やっぱり、何か性質が違うわけで、そういうことを 理解してもらった上で、報酬額を了解してもらうことになるわけ だから。そのためにも、数字で示せる実態はきちんと掴んで、理 解をしてもらう、知ってもらうことだ。不利になる話じゃなく て、やっぱりその上でいろいろ評価をしてもらうということでない とだめだ。コロナなんかで議会活動、議員活動の時間やいろん な公的な行事がなくなってくる。もし、我々がこれから1年間、 積み上げた数字の中で、本来そういうことがなければ、公的な活 動があったであろうということが想定されるのならば、交流事情 の数字だと説明すればいい。時間は個人差があるから、例えば住 民から言うと、一番少ない人に合わせろなんていう人はおそらく いないと思う。一番多い人に合わせろという人もいないかもしれ ない。例えば平均値を取るとかという、取り方にしてもおそらく これから記録する時間の方が、増える要素はある。 それはなぜかという、1人ひとりで言えば、例えば、一般質問 をする人たちが増えているので、当然増える。それとさっきも言 って繰り返しになるが、先ほど橋本委員が心配したところ、こん なにいろんなことが見られないことになってるみたいなやつはも う当然、通常ならば、それがこの数字に付け加わるんだと説明を すれば済む話だと思う。それと、単純な時間単価で、住民は比較 しないと思う。滝沢市議会からの…。</p>
	足立議長	田中克美委員長、皆の意見を聞こう。
	田中克美委員長	滝沢市議会だから、そもそも元の金額が、我々より高い金額 だ。
	澤委員（副議長）	田中克美委員長の意見は皆の意見を聞いた後に言おう。
	田中克美委員長	意見が出ないから。次々に発言があれば、私は言わない。
	足立議長	じゃあ、意見を言おう、言おう。
	寺垣委員	<p>いいか。前期34回か33回ぐらいずっと議論を続けてきた。 報酬のこともずっとあった。田中克美委員長が、「報酬を上げる ことを町民さんに理解してもらおうことだ。」と一貫して言われて いて、私もそうだと思っていた。</p> <p>きょうの田中克美委員長の資料の目標が（1）と（2）とあつ て、その目標の（1）と（2）を別個でするわけじゃないと思 う。（1）と（2）を同時並行していくんだらうと思っている。 だから、報酬の対象になる議会活動、議員活動は多分この先増え るだろうなという率直な感想を持っている。同時に町民に理解を 求める金額を例えば30万円にするのなら、30万円を理解して もらうための活動を我々がやっていかななくてはならない。その中 で自分がこういう活動をしたという時間をつけていく。これじゃ 30万円に足りないなあとか、多分この先いろんな意見が各個人 個人の中で僕は出てくると思う。今まで以上に頑張っているの に、たったこれだけしか上がらんのかという気持ちを持たれる方 もいらっしゃると思う。なのでその報酬対象になる議会活動、議 員活動の記録を、町民に見せるか見せないかは別として、1年間 つけ続けるのがいいのかどうかも、これから先の議論になるとは 思う。これはもっと言う、ある程度はこういうことをやってる から、報酬はこれだけという決め方もあると思うが、例えば30</p>

		万円なら30万円にしようということをお先にポンと出して置いて、それに向かって議員がどれだけ頑張るのかということが、町民に理解してもらうことに繋がっていくのじゃないかなという気持ちもある。
	森田委員	私も報酬の目標の金額をいくらにするかを議員全員が同じ目標に向かっていくやり方をしていかないといけないと思う。いろんなことを投げかけていくらにするのが後付けではなく、町民に理解してもらうために進めていくというのがいい。いろんな意見を言うのもいいが、町民の意見を聞いていくのが大事だと思う。それが報酬アップについて町民からの見える化というのか、そういうのに繋がっていくと思う。金額をいくらにするか議論してそれに向かっていくというのでないと、町民からの批判は出ると思うが、これだけががんばっていくというのは見せた方がいい。
	吉田委員	町民に理解をしてもらうのは、おそらく難しい。僕はあくまでも上げるなりなんなりというか、これには町民として賛成して上げると理解してくれる人が何人いるのだろうか。
	田中克美委員長	吉田委員、どなたの意見に言われているのか。
	吉田委員	いやいや。私は民間で働いた中で、議員になってやってみて、議員は本当に安いと思う。議員はこんなに安くてやれるのだろうかと思っている。プレッシャーも大きいし、いろいろな人からの目もある。自分たちで決めてこれでやろうという形でない限りは町民からの理解は得られないと思う。これくらいないとという議員の立場があると思う。
	柳委員	同僚議員と報酬について対話を持つ中で、定数は上げられないけど、報酬は上げられるのなら、今期チャレンジするべきだという話になった。なぜかという、この報酬では今今の議員活動が支障をきたしている。もともと報酬がいくらというのは根拠がないと思う。例えば町長が90万円、局長が50万円、普通の職員が20万円、県議会議員が70万円、市議会議員が40万円、町議会議員が20万円だ。ただし、今実際に議員になられて、活動をされてる皆はこれだけないと今の活動にも支障をきたすし、さらなる議会の改革だとか改善に対する活動も無理だという現状は承知している。それで住民に、親切丁寧に対応していくということは必要かもしれないし、1年実績を蓄積したのも必要かもしれないが、すぐに町民のところに行って、この現状を聞いていただいて、先ほど発言があったように僕は30万円なら30万円でもう決めてしまって、その方向で親切丁寧に町民との対話を繰り返すほかないと思う。そして一番大事なことは今上げないと、2年後3年後はあげられやしない。田中委員長は委員長という職責がある中で心配されて、この報酬アップに、もしものことがあれば、次は上げる可能性がないと言われるが、それならば早く動かないと。早く町民のところへ飛び込まないと。今の機を失ったら上げにくいと思う。橋本委員や皆の意見にもあったようにデータの蓄積もいいが、議員の活動は単価とかそんなことではないと思うし、いろんなその党派とかに所属されている方もいらっしゃると思うが、そこはカウントされていないという時間帯もある。「議員というのは365日24時間、議員活動だと思っているので、時間等々じゃなくて、要は議会として議員としてこういうことはやらなきゃいけませんよ。」ということだけは、きちんと町民に掲示する必要があるのだけれども。これだけのものを報酬としていただかないと議員活動に支障をきたすということも含めて

		1日も早いうちに住民に飛び込んでいかないと。今上げなかったら、もう上げる事ができないというのが思いだ。
	升井委員	時間でやるのも考えものだし、町民がこれを見て納得するとは思えないし…。
	田中克美委員長	これって何だ。
	升井委員	時間単位の表だ。
	田中克美委員長	それは無視してと言った。
	升井委員	時間でするというなら、極端に言えばがむしゃらに回ればいいのかということでは議員活動は測れないだろうし、柳委員が言われたように「するなら今しよう。この金額じゃ議員活動に支障をきたしている。」ということ町民に分かってもらうということだ。町民が全員賛成するわけではないので、するなら思い切ってしてみようということやってみれば良いと思う。
	田中克美委員長	それをやって失敗したところがある。
	升井委員	そんなこと言っていたら手も足も出ない。やるならやって、失敗したら、もとに戻るだけだ。
	田中克美委員長	問題提起するが、「明日から30万円にする」とした場合、どのように説明するのか。
	森田委員	説明というのは…。
	田中克美委員	根拠は何だと言われたら、どうするか。30万円とした根拠は何だと説明するのか。必ず聞かれる。森田委員ならどう答えるのか。
	森田委員	議員として生活していくため、活動していくためには報酬として30万円必要だと答える。
	田中克美委員長	そんな抽象的なことを言ったって、分からないだろ。
	森田委員	分からないと言っても、町民も意見交換の中で、いろいろ言われると思う。「議員はどういうことをやっているの。」とか。滝沢市議会の議員フォーラムでもあるように報酬のことも含めて率直な意見交換をするべきだ。30万円という意思統一をするべきだ。30万円となったら、士気も上がるし、活動をやっているかという気持ちにもなると思う。意見交換を積み重ねた時に、「議員の報酬をアップしてもいいのじゃないか。」という声も出てくるのではと思う。根拠は何と言われても答えられないが、町民と意見交換をまず始めてみるということが大事だと思う。
	田中克美委員長	意見交換の主題は「30万円に引き上げます」ということか。根拠が説明できない出たとこ勝負の意見交換はすることができない。
	森田委員	そんなこと言っても前に進まないと思う。
	田中克美委員長	そういうやり方をするから前に進まないんだ。
	宮本副委員長	その前に皆の意思は上げる事に同意しているのか。反対していないな。引き上げに反対する者はいないな。
	澤委員（副議長）	今30万円という金額のことをずっと言っているが…。
	田中克美委員長	例えばだ。
	澤委員（副議長）	今は食料品でも何でも消費者物価指数が3%上がっていると言われている。議員だって同じように生活的に被害を被っている。単純に議員の活動のことばかり盛んに出ているが、我々は議員かもしれないが、一般の町民として物価高で生活が厳しくなっているのは、議員じゃなくても同じだから、そのあたりは町民に理解してもらえと思う。議員だって生活しないといけないんだ。

	田中克美委員長	我々がもらうのは議員としての報酬だ。
	澤委員（副議長）	それならそれで生活しないとイケないんだ。
	柳委員	澤副議長も言われるように報酬22万9,000円全て議員活動に専念しなさいと捉えられがちだが、実態は生活給だということを認めないとイケないと思う。好きな行動ができない。今がぎりぎり自分の蓄えも入れることもしている。もっともっと議員としてやらないとイケないとなると、あと最低7万円プラスだとなるならいいが。冗談ではなく、これから若い新しく参入してくる人が子育て世代とする議員なら、とてつもない金額が必要になる。次がある人はそれなりに資金も必要だろう。議員年金も勝手に廃止されて議員の特権なんてない。そういうことも含めて議員もひとりの生活者であることを含めて議員活動をすることを提示すると私なら思う。
	足立議長	ちょっと休憩しよう。
休憩 再開	田中克美委員長	休憩する。 10時56分 再開する。 11時18分
	田中克美委員長	様々な思いがある。手法についてもいろいろあるが、手法についてあまり議論になってない。委員長、副委員長として考えて提案したことが、どのように理解されているのかよく分からないが、ただ今期中に引き上げを実施したいということだけは共通認識だろう。それを早くしようということが一つの内容だと思う。引き上げるには、手順がある。少なくとも諮問し、答申を得る必要がある。全然町民と意見交換しないでいくということにならないだろうから。活動記録のことはさておいて、数カ月でできることではない。きょうの議論を踏まえて、次の時どのような問題提起をするかというのは、宮本副委員長と相談をして提示したい。日程は追って連絡する。以上で協議事項は終わる。
報告事項 (1)	田中克美委員長	報告事項(1)タブレット端末の導入に関する小委員会の報告について入る。お手元に行政事務調査のまとめを配布している。詳しいことは言わない。特別なまとまった報告ができる段階ではまだない。中間でもない。あくまでも行政事務調査についてのまとめの報告として皆に読んでいただく。引き続きタブレット端末の導入に関する小委員会の活動は続いていくということで理解いただきたい。読んでいただいて何か情報提供があれば、議会事務局の方まで言ってほしい。よろしいか。
	皆	よい。
その他		その他あるか。足立議長あるか。
	足立議長	ない。浜野議会事務局長あるか。
	浜野議会事務局長	ない。
閉会	田中克美委員長	ないようなので、以上で議会活動の在り方検討特別委員会を終了する。 *起立、礼 11時22分閉会

上記のとおり会議の次第を記録し
これを証するため、ここに署名する。

議会活動の在り方検討特別委員会委員長

田中克美